

しーきゅうぶ東海村



www7a.biglobe.ne.jp/~risk-c3/

第8号

2009年 1月27日発行

題字：山口敦一

柏崎・刈羽地域の市民団体 「くらしをみつめる・・・柏桃の輪」と 交流会を実施

目次

| | |
|--------|-----|
| トピック紹介 | 1 |
| 交流会報告 | 2～3 |
| 活動予定など | 4 |

10月24日～25日、柏崎・刈羽地域の市民団体「くらしをみつめる・・・柏桃の輪」の皆さん20名が来村され、交流会を開催しました。

初日は、原子力科学館でJCO臨界事故の状況やその時の気持ちなどをお話しました。その後、日本原子力研究開発機構で原子力発電所の燃料の安全性を研究している施設を見学しました。

翌日は、村上村長にも参加していただき、原子力とまちづくりについて議論したり、双方の活動に対して有益な意見交換をしました。

「くらしをみつめる・・・柏桃の輪」とは

平成16年、原子力と共生する中で、正確な情報を得て、正しい知識を身につける必要性を感じ設立。現在、会員60名。ほとんどが女性。暮らしを支えているエネルギーや電気のことを生活者の目線で学び、考え、自分の判断で行動し、安全と安心の中で暮らしやすい町になることを願って活動。自主勉強会、電力との懇談会、シンポジウムも開催。



代表 歌代勝子さん

(新潟県柏崎市剣野町)



柏桃の輪との合同見学会

日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所 原子炉安全性研究施設にて 総勢37名

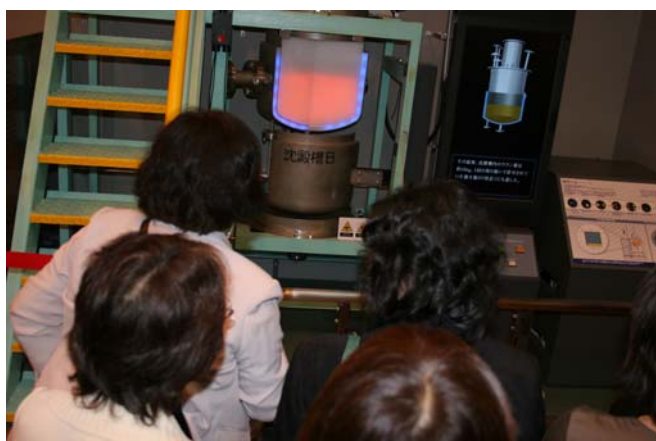
「柏桃の輪」との交流会

2008年10月24日（施設見学と懇親会）～25日（交流会）
「くらしをみつめる・・・柏桃の輪」20名 +事務局2名
しーきゅうぶ東海村 10名 +事務局1名 計33名

原子力科学館でJCO事故現場の模型を見学

しーきゅうぶ東海村のメンバーのほとんどが、JCO臨界事故をきっかけに、原子力施設の安全対策に関心をもつようになりました。その活動の原点であ

るJCO臨界事故現場の様子を原子力科学館でみていただきました。



模型による事故の再現を食い入るように見つめる皆さん



事故の原因、当時の様子、住民の思い、すべての説明に真剣なまなざし

原子炉安全性研究施設を見学

世界最大の原子力発電所を抱える新潟の皆さんと、原子炉の安全性に関わる研究施設を見学しました。「しっかりした研究に基づいて施設の安全が審査さ

れていることを知って安心しました。」という感想が出ました。



実験施設内にて
原子炉の暴走を想定した実験が行われている



研究内容の説明
研究結果は国の審査に活かされていることが分かった

村上村長，原子力安全と東海村のまちづくりに対する想いを語る



普段着姿の村上村長

25日の交流会では、「くらしをみつめる…柏桃の輪」のご要望により、村上村長からごあいさつをいただきました。

＜村上村長あいさつの要旨＞

JCO臨界事故を契機として、原子力安全行政は変化したが、規制機関である原子力安全・保安院が推進側の資源エネルギー庁とともに経済産業省の中にあるなど、規制の独立性などにまだ課題がある。

東海村にとって、原子力と離れてのまちづくりは考えられない。しかし、住民の意見はさまざまである。原子力との共生は今までと異なるまちづくりによって実現したい。今度J-PARC*ができるが、これを定着させて原子力科学の新しい展開・文化をつくりたい。（* J-PARC：大強度陽子加速器施設）

国策で進められる原子力産業ではなく、文化となってはじめて原子力は国民に受け入れられると思っている。そのためには市民がものを言い、原子力事業所が市民の声に耳を傾ける関係が重要。しーきゅうぶ東海村はそういう活動をしている。率直に原子力に対して意見を言うし、事業所もそれに応えるということをやっている。これは原子力を推進するための新しい方法だと思う。柏崎・刈羽地域も原子力と離れることはできないと思うので、今回の地震で経験した制度上の問題も含め、新しい付き合い方をしていく必要があるのではないか。



柏桃の輪としーきゅうぶ東海村，それぞれの活動について意見交換

お互いの活動を紹介した後、悩んでいることについて意見交換をしました。

柏桃の輪からは、事業者意見に言う方法について質問があり、私たちの経験をお話しました。

しーきゅうぶ東海村からは、活動を広める方策や活動資金の調達方法について質問しました。仲間を増やしていく活動のやり方についてたくさんのアイデアをいただきました。



佐藤代表から歌代会長へ花束の贈呈

「NPOしーきゅうぶ東海村」について

「NPOしーきゅうぶ東海村」の前身は、「東海村の環境と原子力安全について提言する会」です。この会は、2003年より「原子力技術リスクC³研究：社会との対話と協働のための社会実験」プロジェクトの中心的な活動組織として、原子力事業所とのリスクコミュニケーションを行ってきました。2005年2月にプロジェクトは終了。提言する会の活動を続けていくため、特定非営利活動法人HSEリスク・シーキューブの東海村支部を立ち上げました。

シーキューブとは、私たちが意識して活動している次の3つのCのことです。

地域社会－Community（コミュニティ）

対話－Communication（コミュニケーション）

協働－Collaboration（コラボレーション）

3つのCが支えあうことで信頼と安心の空間ができるようにとの願いをこめて、立方体を表すキューブと呼んでいます。また、NPO法人とし

ては暮らしに関係のあるリスクを自らの問題として考える団体を目指したいと考え、

健康－Health（ヘルス）

安全－Safety（セーフティ）

環境－Environment（エンバイロメント）

の頭文字HSEをNPO法人名に冠しました。

しーきゅうぶ東海村 活動予定

2月12日(木)10時半～12時半 2月定例会
14時～16時 中岡さんと話す会

3月11日(水)13時半～16時半 3月定例会

場所:東海村合同庁舎 3F会議室

しーきゅうぶ東海村の活動については佐藤隆雄までメールでお問い合わせください。

メールアドレス:satou.takao@khaki.plala.or.jp

会員になってください！

HSEリスク・シーキューブは、身近な健康や安全・環境のリスク問題を、住民と行政・企業がいっしょに考えられる社会づくりをめざす特定非営利活動法人です。広報紙「しーきゅうぶ東海村」は、東海村支部の活動をお知らせするために発行しています。東海村とその周辺にお住まいの方、一緒に活動してみませんか？ 会員には次の3種類があります。

- ①正会員（個人） 入会金 3000円 年会費 5000円（議決権あり）
- ②活動会員（個人）入会金 3000円 年会費 3000円（議決権なし）
- ③賛助会員（個人）入会金 2000円 年会費 1口2000円
- 賛助会員（団体）入会金10000円 年会費 1口50000円

アドバイザー制度も
あります
登録無料！

編集後記

「原子力の安全を守る」市民団体同志の施設見学と意見交換は私たちにとって初めての試みでした。「柏桃の輪」の皆さんにとって、原子力科学館でのJCO臨界事故の状況と原子炉安全性研究施設での原子炉暴走実験施設は心に残る見学になったと思います。翌日の交流会の村上村長の「原子力安全とまちづくり」とお互いの活動に対する意見交換は今後の活動に大いに参考になったと思います。今後も機会があればこういう活動を計画したいと思っております。最後に無理なお願いを聞き入れていただいた原子炉安全研究施設の関係者に心より感謝申し上げます。

<この広報誌のお問い合わせ先>

特定非営利活動法人

HSEリスク・シーキューブ全体事務局

〒201-8511

東京都狛江市岩戸北2-11-1

財団法人電力中央研究所社会経済研究所

全体事務局担当：土屋智子

電話 070(6568)8991

Fax 03(3480)3492

メール:tsuchiya@criepi.denken.or.jp

http://www.7a.biglobe.ne.jp/~risk-c3/